

# しおさい なぎさ 潮彩の渚だより

国土交通省関東地方整備局  
横浜港湾空港技術調査事務所発行  
神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4  
Tel.045-461-3892  
発行/2020年1月31日  
【復活版 第4号】  
<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

潮彩の渚では環境学習が実施されています。本号では秋季の環境学習の実施状況および潮彩の渚で確認された生き物や水質調査結果と昨年9月、10月に襲来した2つの台風による水質への影響についてお伝えします。

**\*\* 環境学習実施状況 \*\***

潮彩の渚において、以下のとおり環境学習を実施しました。

●環境学習会（神奈川小学校）

実施日時：2019年10月28日（月） 9：40～11：45

参加者数：3年生27人、天候：晴れ、気温：20℃

実施概要：海が様々な用途に利用されていることや東京湾の環境について学習し、干潟の観察の注意事項について説明を受けた後、潮彩の渚において砂を掘ったり石をひっくり返して生き物の観察を行いました。当日は多数のカニ、アサリ・カキ等の貝類、エビ、ヤドカリ等の多数の生き物が確認されました。



座学状況



生き物観察

**\*\* 事務所からのお知らせ \*\***

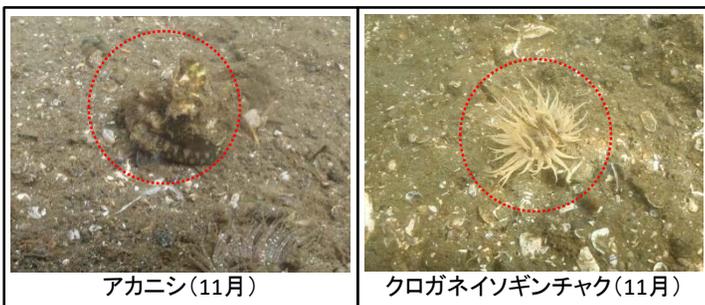
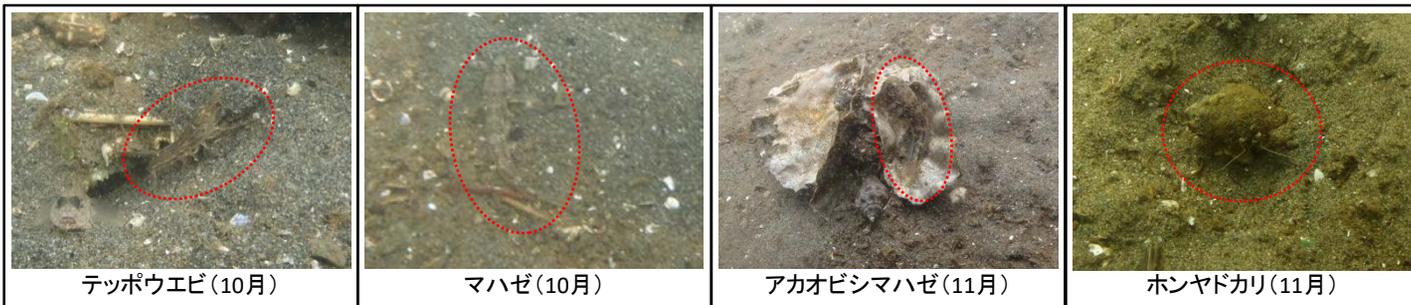
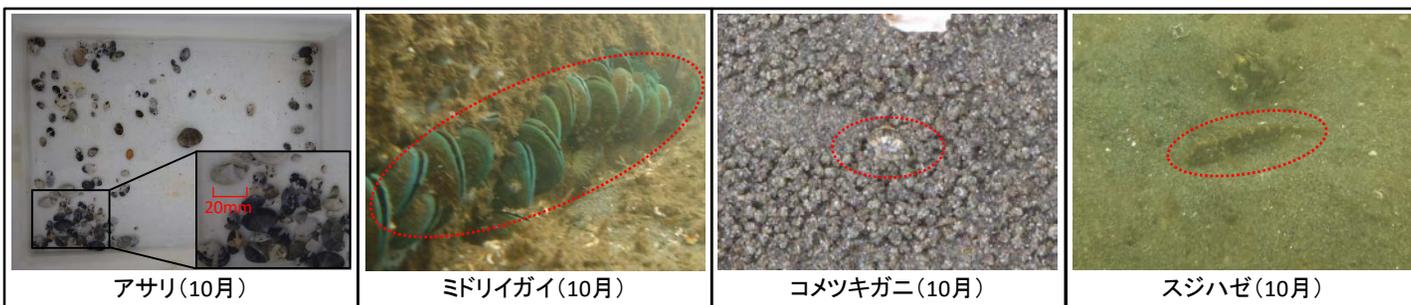
●潮彩の渚における環境学習の実施をご検討の場合は、本事務所までお問合せください。

【問い合わせ先】 TEL：045-461-3892 E-mail：info-y83ab@mlit.go.jp

## 10月～11月に見られた生き物

10月～11月の調査では、底生生物・魚類等の様々な生物（貝類やカニ、ハゼ、イソギンチャク等）が確認されました。マハゼは10cm前後の大きさのものが多く見られ、一部15cmほどの大きさのものも確認されました。

アサリは10mm前後の大きさのものが多くを占めますが、20mm前後の大きさのものも少し見られ、成長が確認されました。



### 今月のいきもの：ハゼとテッポウエビの共生

【特徴】ハゼは種数が多く吸盤状の腹ヒレで水底に貼りついて生息します。テッポウエビは大きなハサミが特徴で、これを高速で閉じることで、大きな音を出すことが知られています。

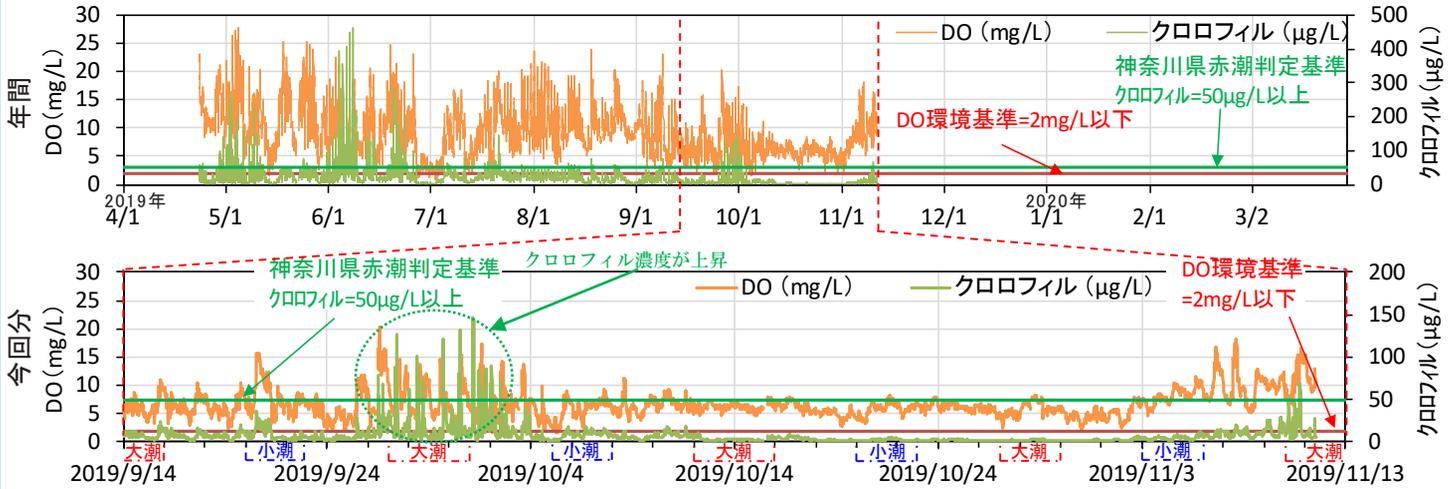
【生息域】沿岸域の砂泥質の海底に巣穴を掘って生息しています。

【生態】ハゼとテッポウエビは、同じ巣穴と一緒に住んでいることがよくあります。ハゼは巣穴の外で外敵の接近を察知してテッポウエビへ伝える見張り係をします。一方、テッポウエビは、巣穴の作成や拡張、修繕をする係をすることで、お互い助け合って生きています。

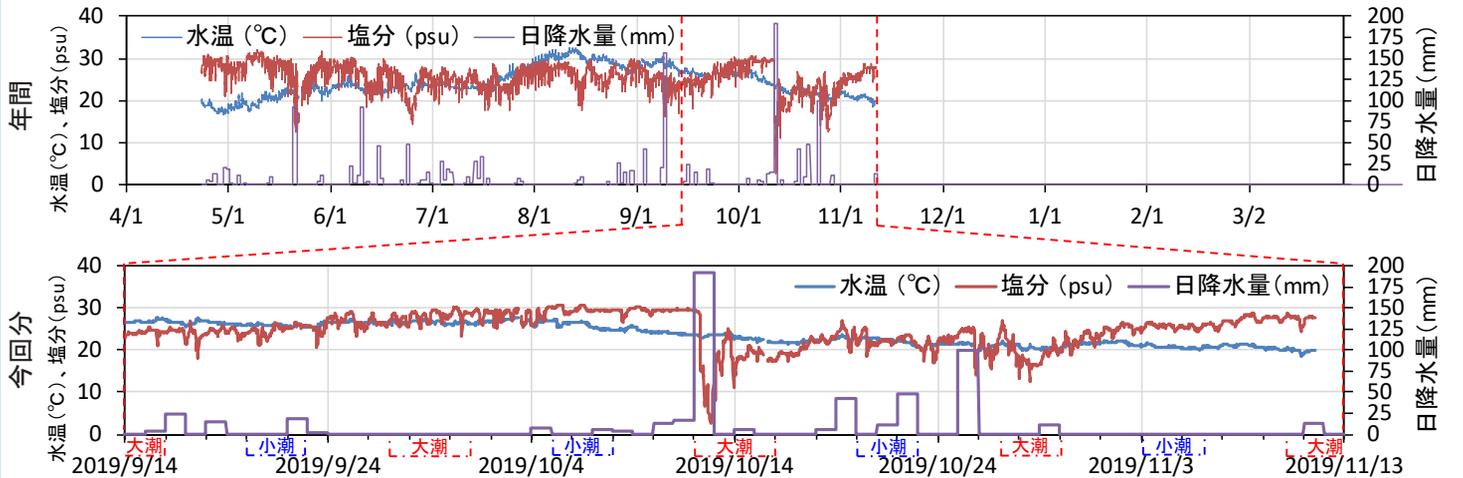
10月～11月に見られた生き物抜粋

# 「潮彩の渚」水質調査結果(9/14~11/11)

- ・潮彩の渚に水質計を設置して、水質を継続的に測定しています。
- ・植物プランクトン量を確認できるクロロフィル濃度は、赤潮判定基準の一つになっています。クロロフィル濃度が基準値の50 $\mu\text{g/L}$ を超えた時間帯があった日は、59日中8日で、最大値は147 $\mu\text{g/L}$ でした。
- ・海水中の溶存酸素(DO)濃度が低下すると、魚や貝など様々な生物に悪影響を及ぼします。溶存酸素(DO)濃度が環境基準の2 $\text{mg/L}$ を下回って貧酸素状態となった時間帯があった日は、59日中4日で、最小値は1.5 $\text{mg/L}$ でした。



溶存酸素(DO)濃度とクロロフィル濃度の測定結果(年間と今回分)



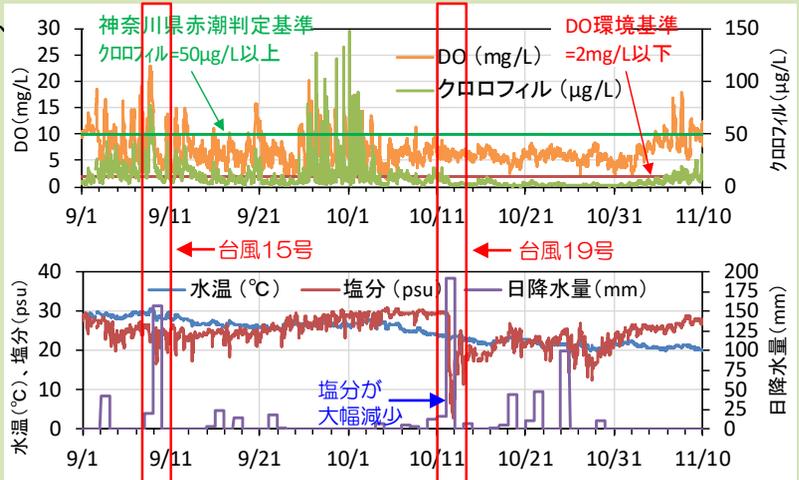
水温と塩分の測定結果と日降水量(年間と今回分) 出典:過去の気象データ(降水量の日合計),気象庁 (<https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>)

## コラム:台風15号と台風19号による海水の水質変化

●**大型台風の上陸** 令和元年には、9月9日に関東における観測史上最強クラス(気象庁,1951年以降)の勢力で台風15号が千葉市付近に上陸し、主に千葉県で暴風により大きな被害をもたらしました。さらに、10月12日に大型で強い勢力で台風19号が伊豆半島に上陸し、関東・東海地方から東北地方にかけて広い範囲で大雨や高潮により大きな被害をもたらしました。

●**潮彩の渚の水質変化** 潮彩の渚前面海域の水質は、特に台風19号の襲来時に塩分が大幅に減少していました。これは、台風により淡水が海に多量に流れ込んだためです。一方、DOやクロロフィルの変化は、塩分・水温ほど明確ではありません。10月は水温の低下ともなってクロロフィルが低下していましたが、台風19号通過から20日程度後にクロロフィルが上昇する傾向が見られ、台風15号でも同様の傾向が見られました。ただし、台風との因果関係ははっきりとはしていません。これは、クロロフィルやDOの変化が出水のみならず、流れや気温等の他の要因にも影響され、複雑なためです。

●**海の生物は大丈夫?** 魚などの自ら移動できる種は、淡水があまり混じっていない海底や沖の方へ逃げ、貝類などの移動できない種についても、低塩分環境への耐性が強いので、潮彩の渚では、大量死等の現象は確認されませんでした。



潮彩の渚の前面海域における台風15号および19号上陸時の水質変化